

## 第 2 生活行動



## 1 学習・自己啓発・訓練

### (1) 1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った県民は87万人、行動者率は32.9%

過去1年間（平成22年10月20日～23年10月19日。以下同じ。）に何らかの「学習・自己啓発・訓練」を行った人は87万人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率。以下同じ。）は32.9%となっている。男女別にみると、男性が44万人、女性が42万9千人となっており、行動者率は男性が33.4%、女性が32.4%で、男性が女性より1ポイント高くなっている。

行動者率を平成18年と比べると、0.9ポイント低下しており、年齢階級別では15～24歳及び35～54歳で低下しているが、そのほかの年齢階級では上昇した。特に10～14歳では14.5ポイントの増と大幅に上昇した。（表1-1、図1-1）

男女、年齢階級別に見ると、男女とも10～14歳が最も高くなっている。また、10～34歳の各年齢階級では女性が男性を上回っているが、35歳以上では男性の方が高くなっている。（図1-2）

表1-1 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

年次	総数	10～14歳	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65～74	75歳以上
平成23年	32.9	57.9	39.0	39.0	31.4	31.3	32.4	30.9	14.7
平成18年	33.8	43.4	45.1	38.0	38.9	36.1	30.1	26.9	10.9
増減	-0.9	14.5	-6.1	1.0	-7.5	-4.8	2.3	4.0	3.8

図1-1 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

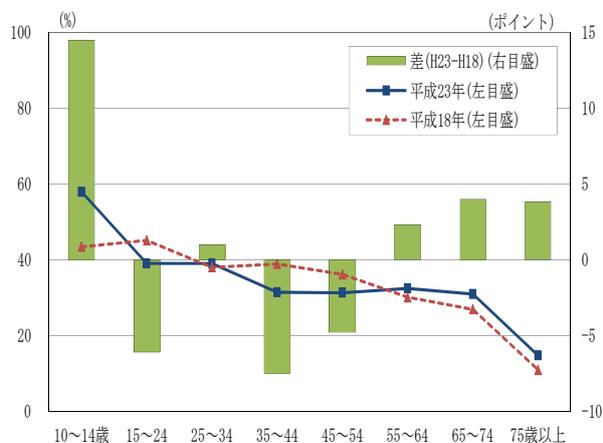
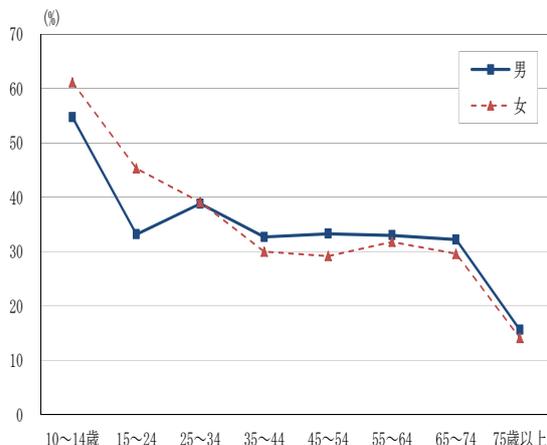


図1-2 「学習・自己啓発・訓練」の男女、年齢階級別行動者率



(2) 行動者率は「パソコンなどの情報処理」、平均行動日数は「家政・家事」が最も高い

「学習・自己啓発・訓練」の主な種類別に行動者率をみると、「パソコンなどの情報処理」(11.8%)が最も高く、次いで「英語」(9.5%)、「芸術・文化」(8.1%)となっている。

平成18年と比べると、「英語」及び「パソコンなどの情報処理」が上昇となった。

行動者について平均した過去1年間の行動日数(平均行動日数。以下同じ。)についてみると、「家政・家事」(117日)が最も多く、次いで「英語」(96.9日)、「パソコンなどの情報処理」(92.9日)となっている。(図1-3)

行動者率を男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」(14.8%)が最も高く、次いで「英語」(10.1%)、「商業実務・ビジネス関係」(7.8%)などとなっており、女性は「家政・家事」(11.7%)が最も高く、次いで「芸術・文化」(9.8%)、「パソコンなどの情報処理」(9%)などとなっている。(図1-4)

図1-3 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率及び平均行動日数(平成18年, 23年)

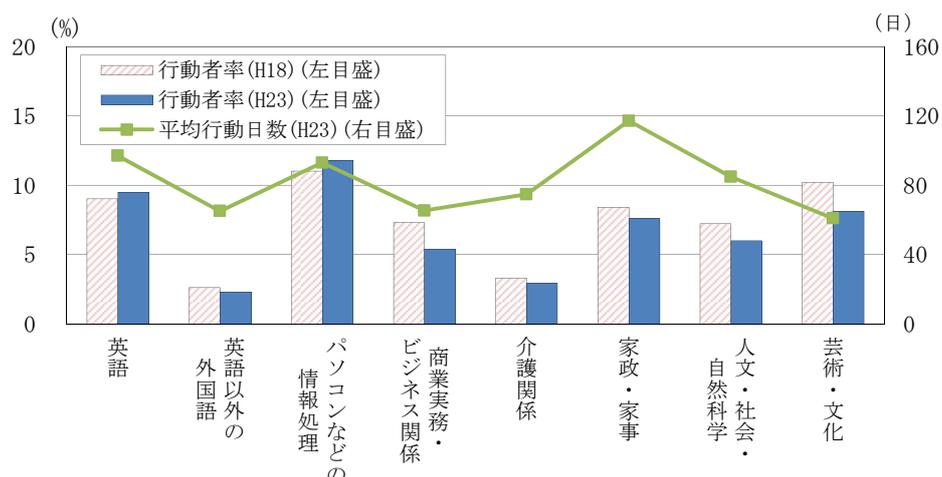
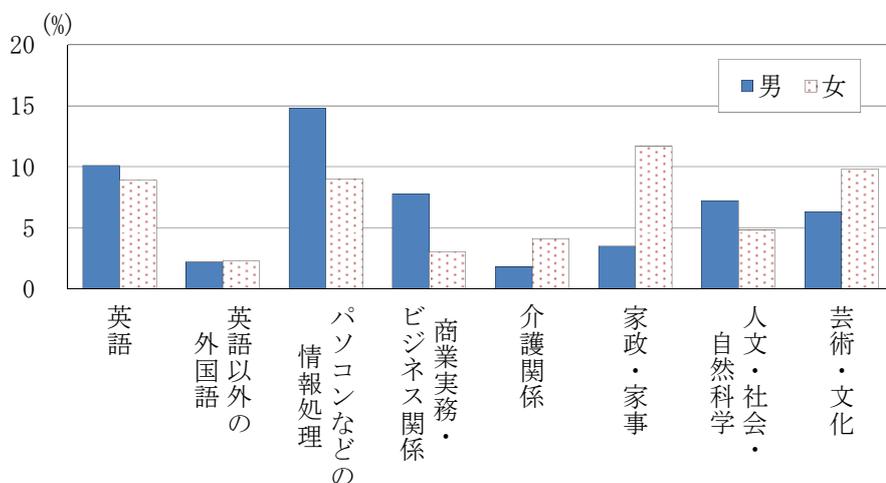


図1-4 「学習・自己啓発・訓練」の種類、男女別行動者率

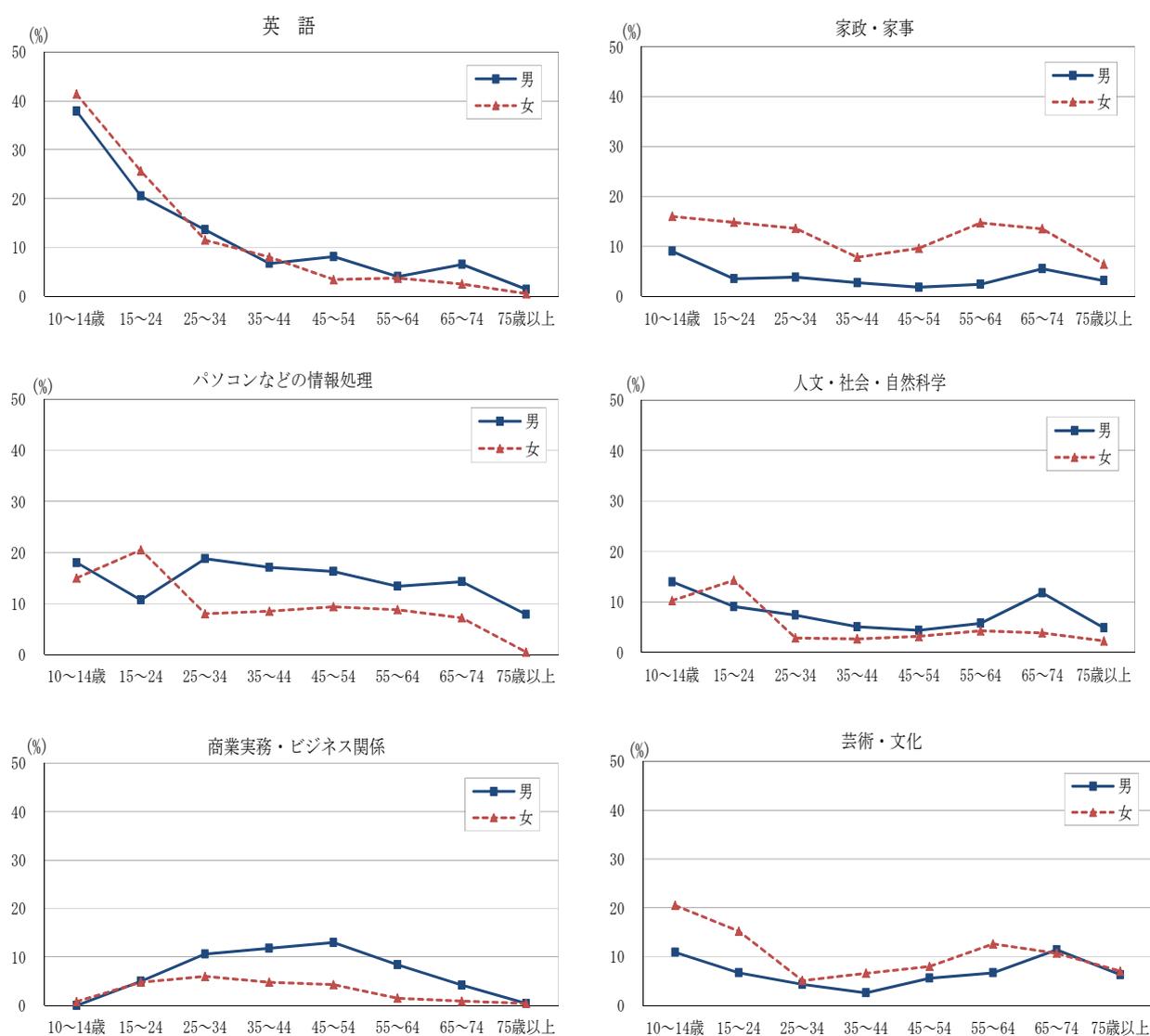


### (3) 「英語」は男女ともに10代で行動者率が高い

主な「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率を男女、年齢階級別にみると、「英語」では男女ともに10～14歳が最も高く、年齢が高くなるにつれて低下する傾向がある。「パソコンなどの情報処理」及び「人文・社会・自然科学」では15～24歳、「商業実務・ビジネス関係」では10～14歳及び75歳以上を除き、すべての年齢階級で男性の行動者率が高くなっている。

また、「家政・家事」ではすべての年齢階級で、「芸術・文化」では65～74歳を除き、女性の行動者率が高くなっている。(図1-5)

図1-5 男女、年齢階級、主な「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率



## 2 スポーツ

### (1) 1年間に「スポーツ」を行った県民は164万7千人、行動者率は62.3%

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は164万7千人で、行動者率は62.3%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が88万9千人、女性が75万7千人となっており、行動者率は男性が67.4%、女性が57.1%で、男性が女性より10.3ポイント高くなっている。

行動者率を平成18年と比べると、全体で2.8ポイント低下しており、これを男女別にみると、男性が2.4ポイント、女性が3.3ポイント低下している。

年齢階級別にみると、10～14歳が最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低下する傾向にある。これを平成18年と比べると、65歳未満の幅広い年齢階級で低下した一方、65歳以上では上昇した。(表2-1、図2-1)

男女、年齢階級別にみると、すべての年齢階級で男性が女性を上回っている。(図2-2)

表2-1 「スポーツ」の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)

年次	総数	10～14歳	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65～74	75歳以上
平成23年	62.3	87.7	73.3	65.4	68.5	62.1	58.4	60.4	34.6
平成18年	65.1	88.0	80.2	71.0	72.8	65.2	61.2	54.2	31.1
増減	-2.8	-0.3	-6.9	-5.6	-4.3	-3.1	-2.8	6.2	3.5

図2-1 「スポーツ」の年齢階級別行動者率  
(平成18年、23年)

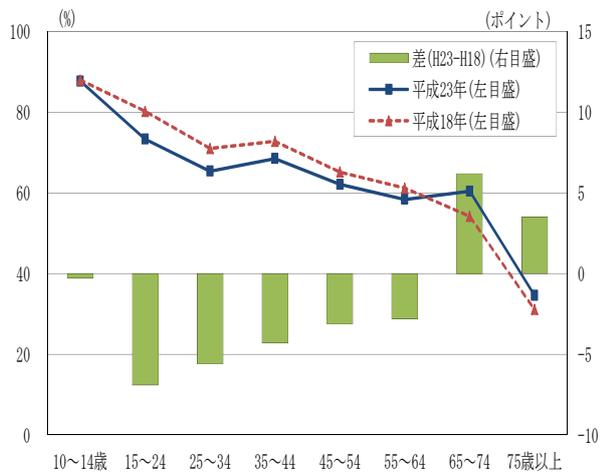
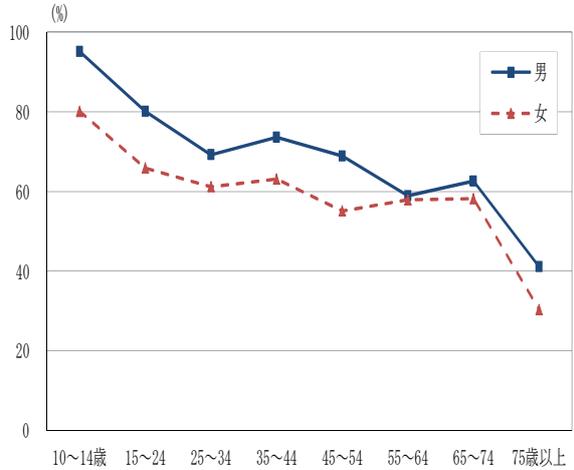


図2-2 「スポーツ」の男女、年齢階級別行動者率



## (2) 「ジョギング・マラソン」の行動者率のみわずかに上昇

「スポーツ」の行動者率を種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」(34.4%)が最も高く、次いで「ボウリング」(11.5%)、「ジョギング・マラソン」(10.5%)などとなっている。

平成18年と比べると、「ジョギング・マラソン」がわずかに上昇したほかは、すべての種類で低下しており、なかでも「ボウリング」は8ポイント減と大きく低下した。

平均行動日数をみると、「剣道」(125.4日)が最も多く、次いで「ウォーキング・軽い体操」(111.4日)、「柔道」(98日)などとなっている。(図2-3)

行動者率を男女別にみると、男女ともに「ウォーキング・軽い体操」(男性29.8%、女性38.9%)が最も高く、次いで男性は「ゴルフ」(17.2%)、「ジョギング・マラソン」及び「ボウリング」(13.5%)などとなっており、女性は「器具を使ったトレーニング」及び「ボウリング」(9.5%)、「登山・ハイキング」(7.9%)などとなっている。(図2-4)

図2-3 「スポーツ」の種類別行動者率及び平均行動日数(平成18年, 23年)

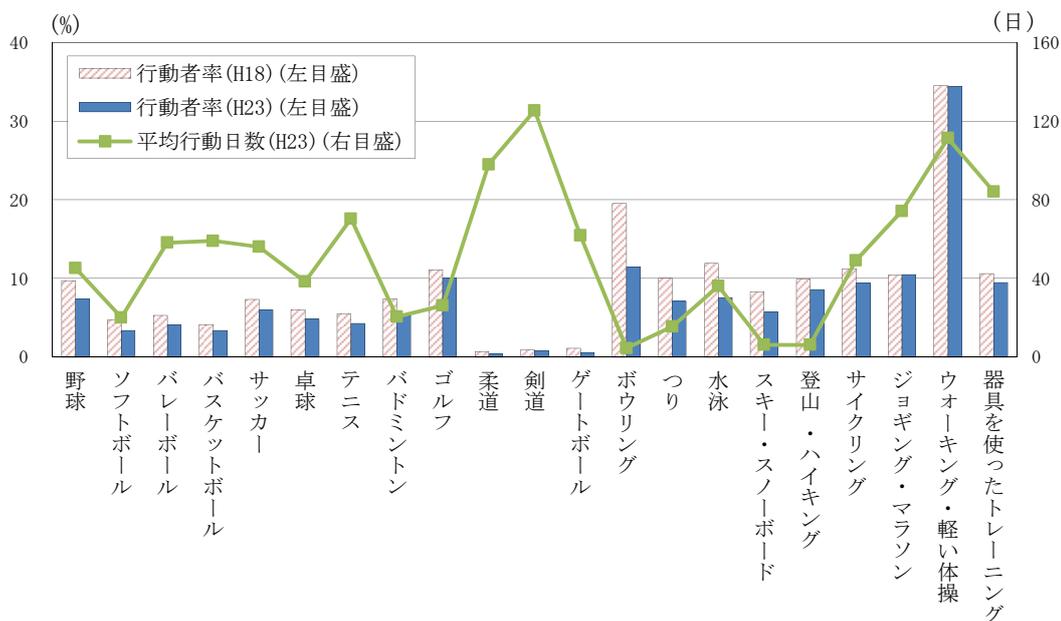
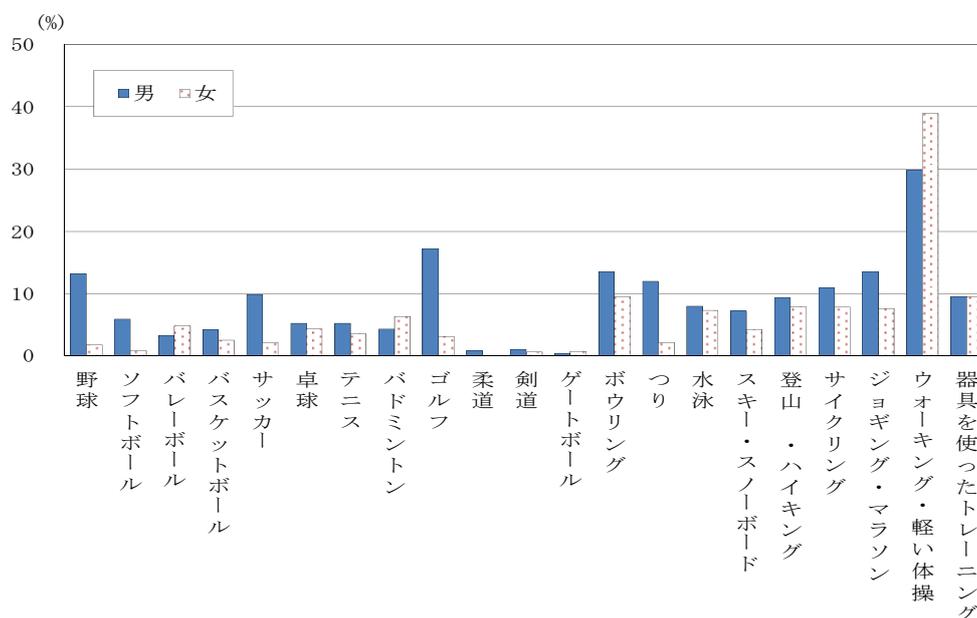


図 2-4 「スポーツ」の種類, 男女別行動者率



(3) 女性はすべての年齢階級で「ウォーキング・軽い体操」の行動者率が最も高い

年齢階級別に、最も行動者率の高い「スポーツ」の種類をみると、10～14歳では「水泳」、15歳以上では「ウォーキング・軽い体操」となっている。これを男女別にみると、男性は10～14歳で「サッカー」、15～24歳で「野球」、25歳以上では「ウォーキング・軽い体操」となっており、女性はすべての年齢階級で「ウォーキング・軽い体操」となっている。(表 2-2)

表 2-2 男女, 年齢階級別最も行動者率の高い「スポーツ」

		(%)							
男女	10～14歳	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65～74	75歳以上	
総数	水泳 (35.9)	ウォーキング・軽い体操 (25.3) (32.7) (34.6) (36.0) (39.8) (45.2) (24.9)							
男	サッカー (48.7)	野球 (29.2)	ウォーキング・軽い体操 (22.0) (28.2) (30.9) (32.7) (44.9) (27.8)						
女	ウォーキング・軽い体操 (32.1) (26.7) (44.5) (41.6) (41.3) (47.0) (45.5) (23.0)								

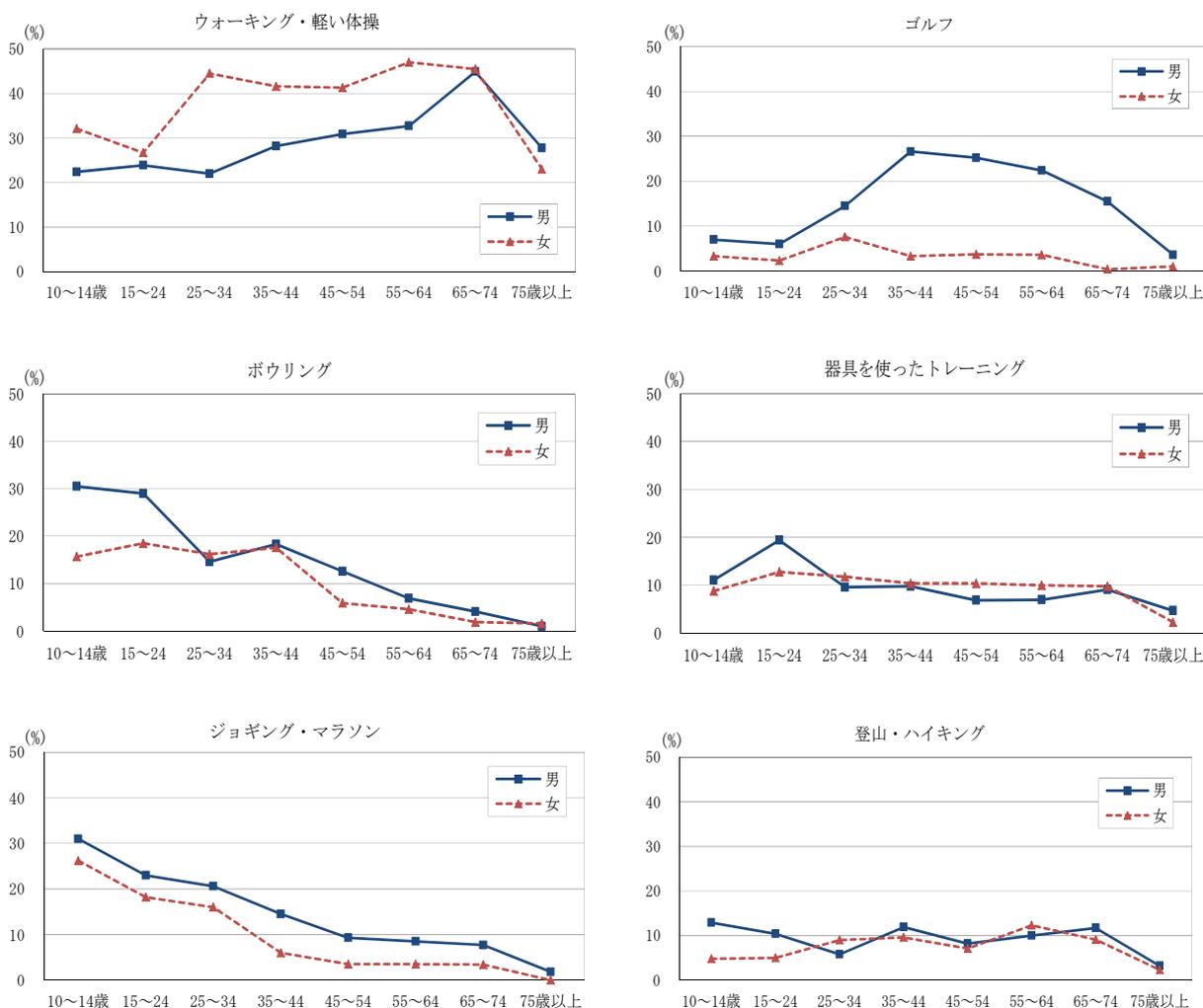
注) ( ) 内の数字は行動者率

(4) 「ウォーキング・軽い体操」は年齢が高くなるにつれて上昇する傾向

主な「スポーツ」の種類別行動者率を男女、年齢階級別にみると、男女ともに「ボウリング」及び「ジョギング・マラソン」は年齢が高くなるにつれて低下する傾向にある。一方、「ウォーキング・軽い体操」は、年齢が高くなるにつれて上昇する傾向にあり、男性は65～74歳、女性は55～64歳で最も高くなっている。

「ゴルフ」は、男性は35～44歳、女性は25～34歳で行動者率が最も高くなっており、すべての年齢階級において男性が女性を上回っている。(図2-5)

図2-5 男女、年齢階級、主な「スポーツ」の種類別行動者率



### 3 趣味・娯楽

(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った県民は219万5千人、行動者率は83%

過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は219万5千人で、行動者率は83%となっている。男女別にみると、男性が110万7千人、女性が108万8千人となっており、行動者率は男性が83.9%、女性が82.1%で、男性が女性より1.8ポイント高くなっている。

行動者率を平成18年と比べると、0.9ポイント上昇しており、年齢階級別にみると、25～34歳を除くすべての年齢階級で上昇した。(表3-1、図3-1)

また、男女、年齢階級別にみると、男女ともに10～14歳が最も高くなっており、25～44歳及び55～64歳を除くすべての年齢階級で男性の方が高くなっている。(図3-2)

表3-1 「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)

年次	(%)								
	総数	10～14歳	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65～74	75歳以上
平成23年	83.0	95.8	93.3	89.8	90.1	85.2	80.7	78.3	54.8
平成18年	82.1	89.7	91.6	90.9	89.1	84.2	78.8	76.0	51.1
増減	0.9	6.1	1.7	-1.1	1.0	1.0	1.9	2.3	3.7

図3-1 「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)

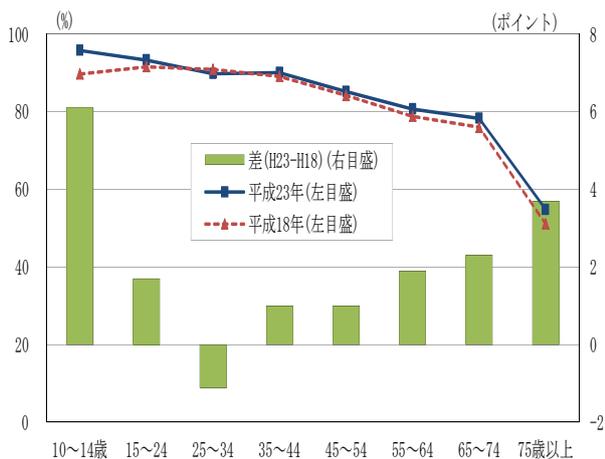
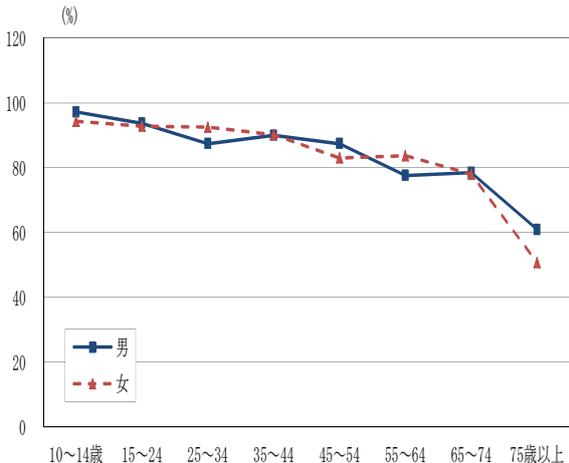


図3-2 「趣味・娯楽」の男女、年齢階級別行動者率



## (2) 行動者率が高く平均行動日数も多い「CDなどによる音楽鑑賞」

「趣味・娯楽」の行動者率を種類別にみると、「CDなどによる音楽鑑賞」(45.1%)が最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」(39.5%)、「趣味としての読書」(36.7%)などとなっている。

平成18年と比べると、「映画鑑賞」、「趣味としての料理・菓子作り」、「日曜大工」、「ポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」、「書道」及び「囲碁」は上昇したが、他の種類では低下している。

平均行動日数をみると、「CDなどによる音楽鑑賞」(142.2日)が最も多く、次いで「テレビゲーム・パソコンゲーム」(120.4日)、「趣味としての読書」(86.7日)などとなっている。

(図3-3)

行動者率を男女別にみると、男女とも「CDなどによる音楽鑑賞」(男性43.5%、女性46.6%)が最も高く、次いで男性では「DVDなどによる映画鑑賞」(39.9%)、「テレビゲーム・パソコンゲーム」(37.4%)などとなっており、女性では「趣味としての読書」(40.1%)、「DVDなどによる映画鑑賞」(39.1%)などとなっている。(図3-4)

図3-3 「趣味・娯楽」の種類別行動者率及び平均行動日数(平成18年, 23年)

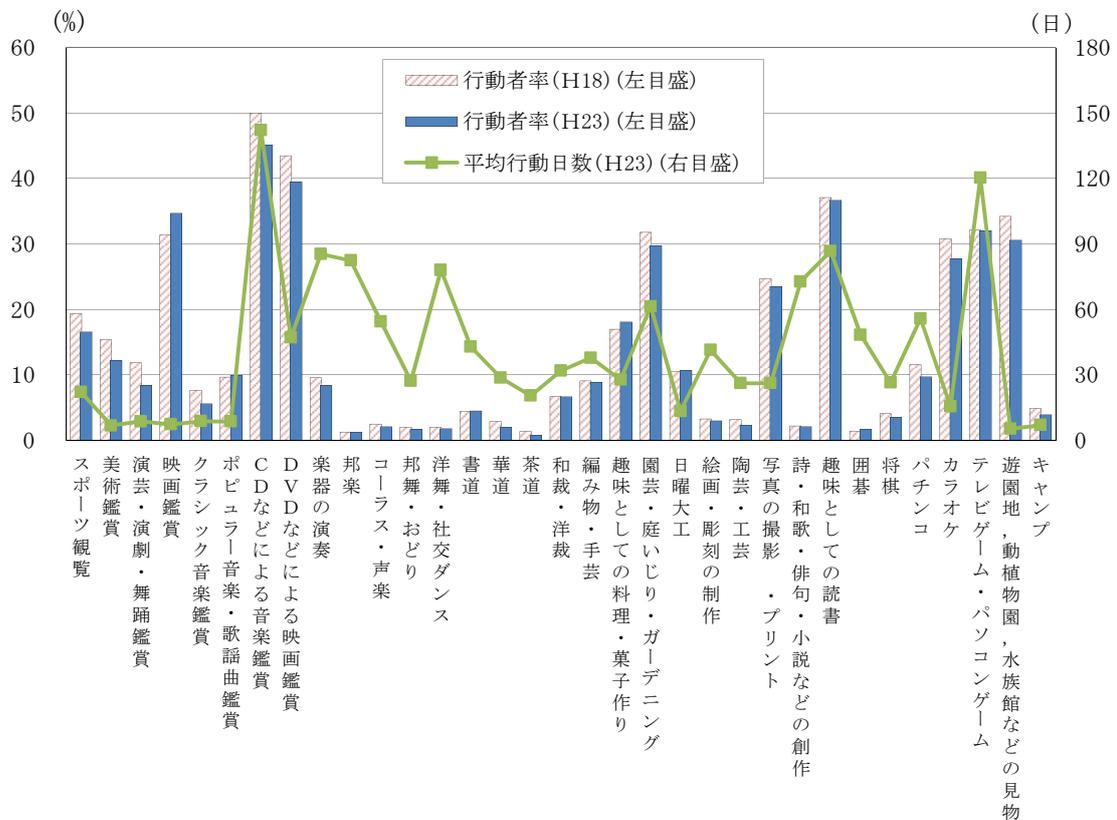
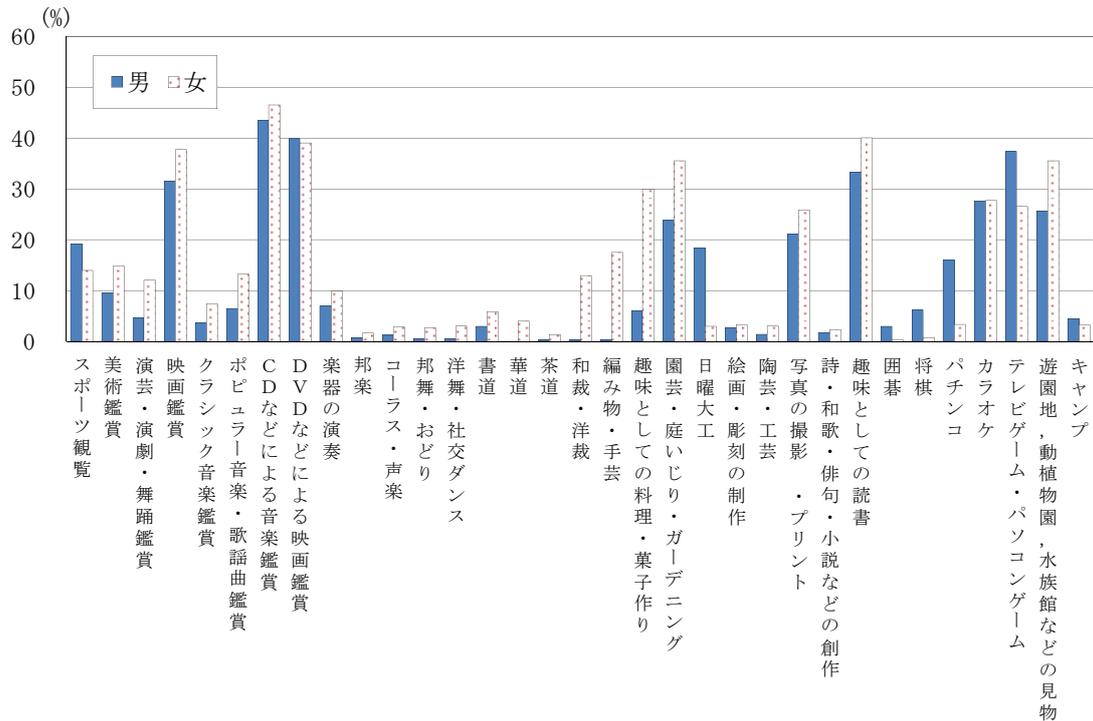


図 3-4 「趣味・娯楽」の男女、種類別行動者率



(3) 55 歳以上で最も行動者率が高いのは男女ともに「園芸・庭いじり・ガーデニング」

年齢階級別に、最も行動者率の高い「趣味・娯楽」の種類をみると、10～14 歳では「テレビゲーム・パソコンゲーム」、15～54 歳では「CDなどによる音楽鑑賞」、55 歳以上では「園芸・庭いじり・ガーデニング」となっている。これを男女別にみると、男性は 35 歳未満で「テレビゲーム・パソコンゲーム」、35～44 歳で「DVDなどによる映画鑑賞」、45～54 歳で「CDなどによる音楽鑑賞」、55 歳以上では「園芸・庭いじり・ガーデニング」となっており、女性は男女総数と同じ結果となっている。(表 3-2)

表 3-2 男女、年齢階級別最も行動者率の高い「趣味・娯楽」

		(%)						
男女	10～14歳	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65～74	75歳以上
総数	テレビゲーム、 パソコンゲーム (78.7)	CDなどによる音楽鑑賞 (68.8) (66.4) (59.9)			(49.8)	園芸・庭いじり・ガーデニング (45.5) (48.3) (31.6)		
男	テレビゲーム・パソコンゲーム (89.7) (69.6)		(65.9)	DVDなど による 映画鑑賞 (57.2)	CDなど による 音楽鑑賞 (48.4)	園芸・庭いじり・ガーデニング (34.7) (44.6) (30.9)		
女	テレビゲーム、 パソコンゲーム (67.2)	CDなどによる音楽鑑賞 (72.3) (72.0) (64.5)			(51.3)	園芸・庭いじり・ガーデニング (56.2) (51.9) (32.1)		

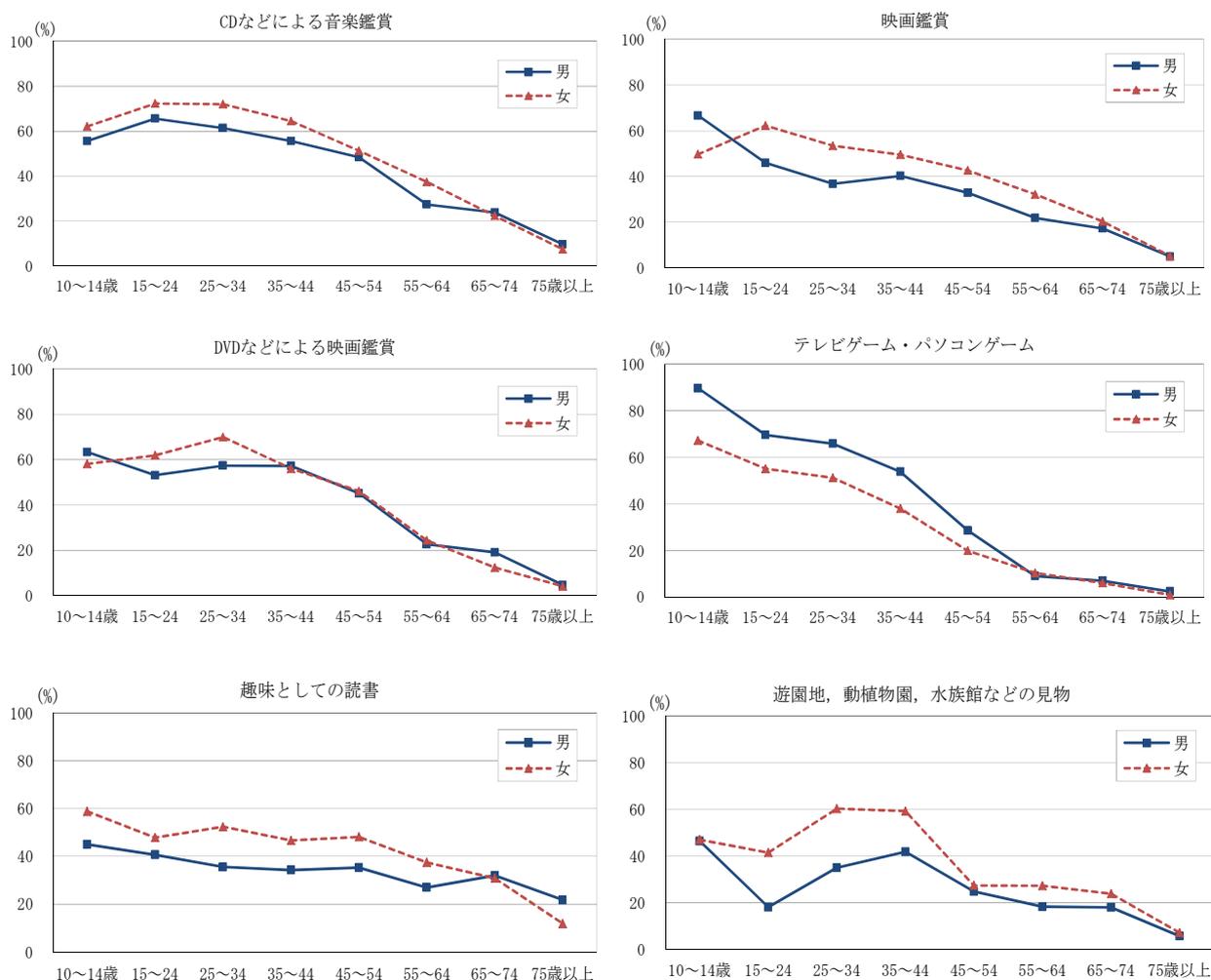
注) ( ) 内の数字は行動者率

(4) 「遊園地・動植物園・水族館などの見物」はすべての年齢階級で女性の方が高い

主な「趣味・娯楽」の種類別行動者率を男女、年齢階級別にみると、「DVDなどによる映画鑑賞」及び「遊園地・動植物園・水族館などの見物」で、男性は10～14歳の若い年齢階級で最も高くなっているのに対し、女性はそれぞれ25～34歳、35～44歳とより高い年齢階級で最も高くなっている。

また、「テレビゲーム・パソコンゲーム」では、55～64歳を除くすべての年齢階級で男性が女性を上回っている。一方、そのほかの主な種類ではおおむね男性より女性の方が高くなっており、「遊園地・動植物園・水族館などの見物」では、すべての年齢階級で女性が男性を上回っている。(図3-5)

図3-5 男女、年齢階級、主な「趣味・娯楽」の種類別行動者率



#### 4 ボランティア活動

(1) 1年間に「ボランティア活動」を行った県民は68万2千人、行動者率は25.8%

過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は68万2千人で、行動者率は25.8%となっている。男女別にみると、男性が33万人、女性が35万2千人となっており、行動者率は男性が25%、女性が26.6%で、女性が男性より1.6ポイント高くなっている。

行動者率を平成18年と比べると、0.9ポイント低下しており、年齢階級別にみると、10～14歳、25～34歳及び55～64歳で上昇したほかは、すべての年齢階級で低下している。(表4-1、図4-1)

男女、年齢階級別に見ると、男性は65～74歳が最も高く、15～24歳が最も低くなっており、女性は35～44歳が最も高く、75歳以上で最も低くなっている。(図4-2)

表4-1 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

年次	総数	10～14歳	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65～74	75歳以上
平成23年	25.8	29.5	16.2	21.6	35.1	28.7	29.5	28.7	12.0
平成18年	26.7	23.8	20.7	18.7	35.6	34.5	26.9	30.7	16.8
増減	-0.9	5.7	-4.5	2.9	-0.5	-5.8	2.6	-2.0	-4.8

図4-1 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

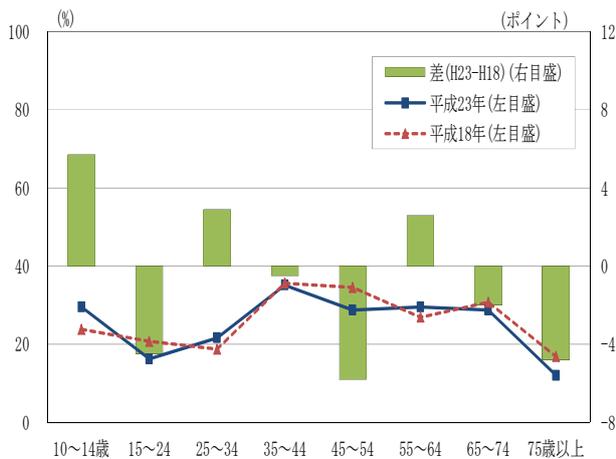
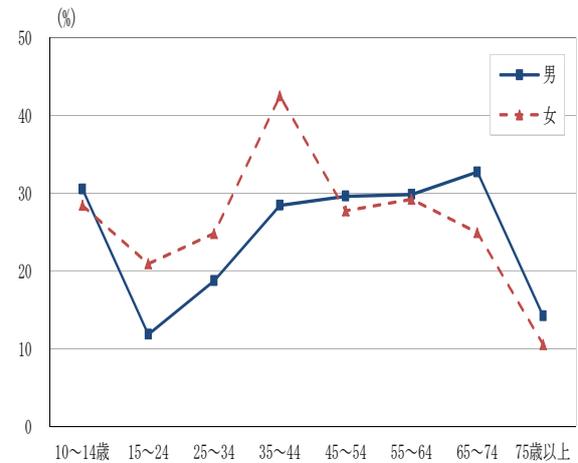


図4-2 「ボランティア活動」の男女、年齢階級別行動者率



(2) 「子供を対象とした活動」、「災害に関係した活動」の行動者率が上昇

「ボランティア活動」の行動者率を種類別にみると、「まちづくりのための活動」(11%)が最も高く、次いで「子供を対象とした活動」(8.1%)、「自然や環境を守るための活動」(5.8%)などとなっている。

平成18年と比べると、「子供を対象とした活動」及び「災害に関係した活動」が上昇した。

平均行動日数をみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関する活動」(63.1日)が最も多く、次いで「障害者を対象とした活動」(38.6日)、「国際協力に関する活動」(38.5日)などとなっている。(図4-3)

男女別にみると、男性は「まちづくりのための活動」(12.2%)が最も高く、次いで「子供を対象とした活動」及び「自然や環境を守るための活動」(5.6%)、「安全な生活のための活動」(5.1%)などとなっている。女性は「子供を対象とした活動」(10.5%)が最も高く、次いで「まちづくりのための活動」(9.7%)、「自然や環境を守るための活動」(5.9%)などとなっている。(図4-4)

図4-3 「ボランティア活動」の種類別行動者率及び平均行動日数(平成18年, 23年)

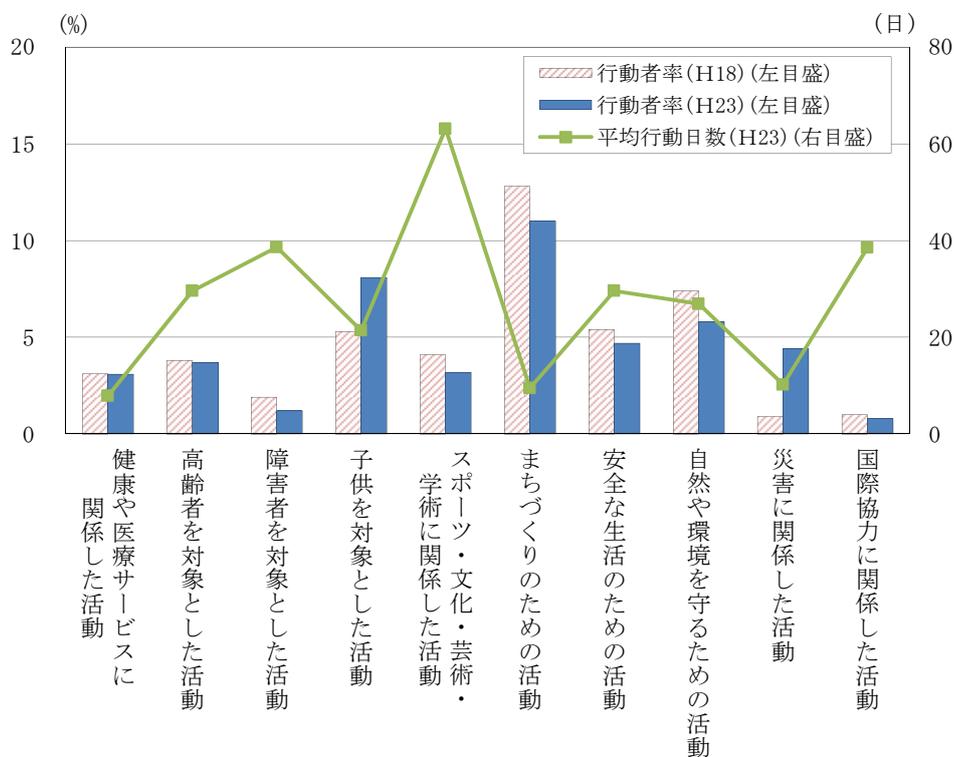
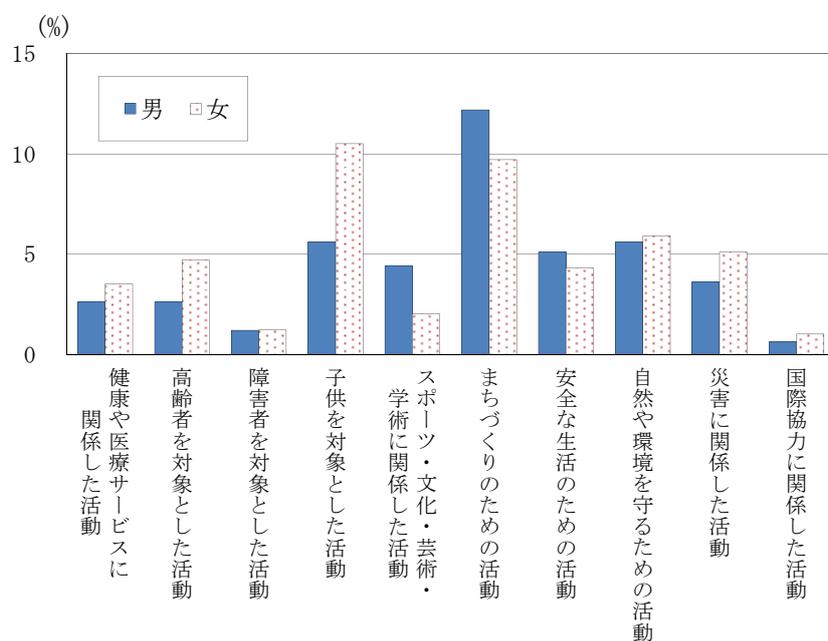


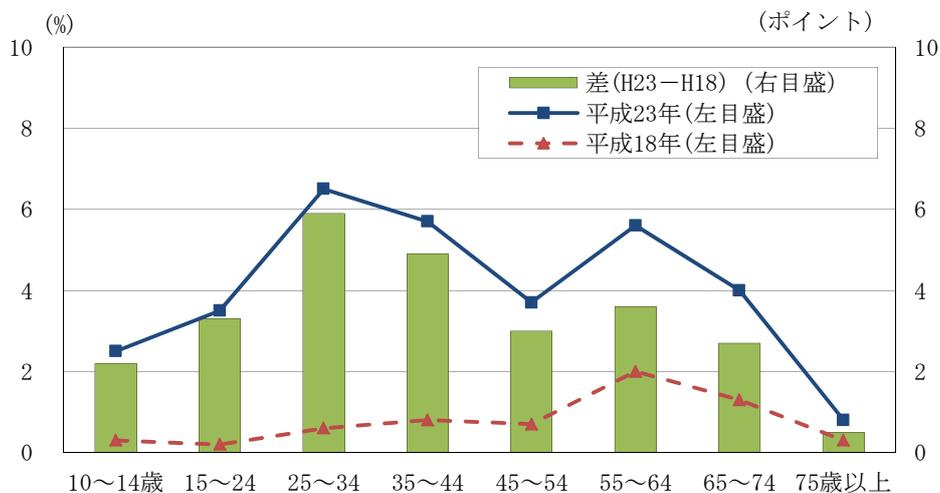
図 4-4 「ボランティア活動」の種類, 男女別行動者率



(3) 「災害に関係した活動」はすべての年齢階級で上昇

「ボランティア活動」のうち「災害に関係した活動」の行動者率を年齢階級別にみると、平成18年と比べ、すべての年齢階級で上昇しており、なかでも最も上昇幅が大きかったのは25～34歳で5.9ポイントの増となった。(図4-5)

図 4-5 「災害に関係した活動」の年齢階級別行動者率 (平成18年, 23年)

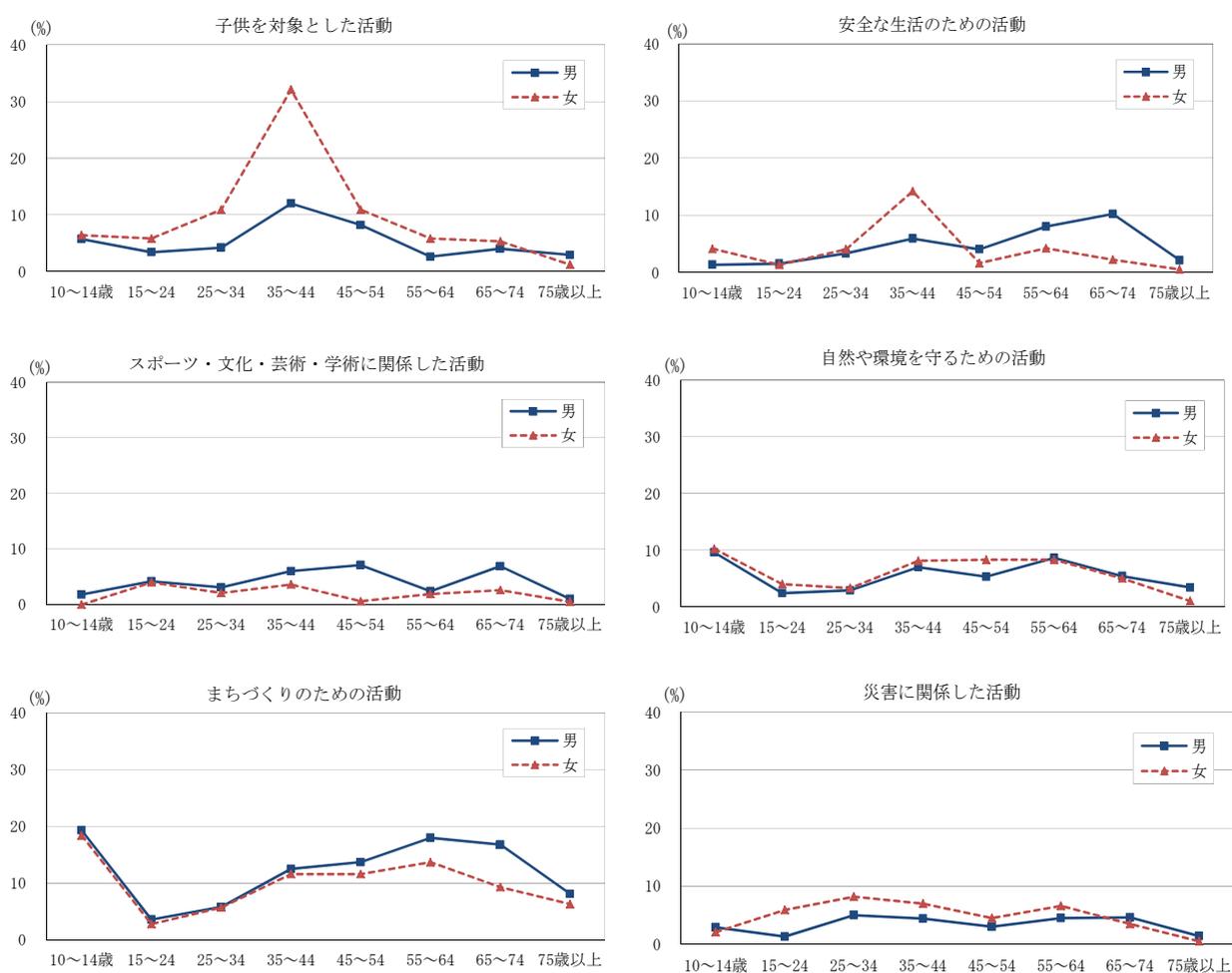


#### (4) 「子供を対象とした活動」は男女ともに 35～44 歳で高い

主な「ボランティア活動」の種類別行動者率を男女、年齢階級別にみると、「子供を対象とした活動」は 75 歳未満の各年齢階級において女性が男性を上回っており、男女ともに 35～44 歳で行動者率が最も高く（男性 12%，女性 32.1%）なっている。

「スポーツ・文化・芸術・学術に関する活動」及び「まちづくりのための活動」では、すべての年齢階級で男性の方が高くなっている。（図 4-6）

図 4-6 男女、年齢階級、主な「ボランティア活動」の種類別行動者率



## 5 旅行・行楽

(1) 1年間に「旅行・行楽」を行った県民は184万2千人，行動者率は69.6%

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は184万2千人で，行動者率は69.6%となっている。男女別にみると，男性が89万1千人，女性が95万1千人となっており，行動者率は男性が67.5%，女性が71.7%で，女性が男性より4.2ポイント高くなっている。

行動者率について平成18年と比べると，全体で4.8ポイント低下しており，年齢階級別では10～14歳を除くすべての年齢階級で低下している。特に45～54歳では，7.7ポイントと大きく低下した。(表5-1，図5-1)

また，行動者率を男女，年齢階級別に見ると，男性は10～14歳，女性は35～44歳が最も高くなっており，10～14歳，45～54歳及び75歳以上を除くすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。(図5-2)

表5-1 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率（平成18年，23年）

年次	（%）								
	総数	10～14歳	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65～74	75歳以上
平成23年	69.6	83.6	65.7	73.0	80.1	69.7	72.3	69.8	43.0
平成18年	74.4	79.8	71.0	78.0	83.2	77.4	76.0	74.1	49.2
増減	-4.8	3.8	-5.3	-5.0	-3.1	-7.7	-3.7	-4.3	-6.2

図5-1 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率  
（平成18年，23年）

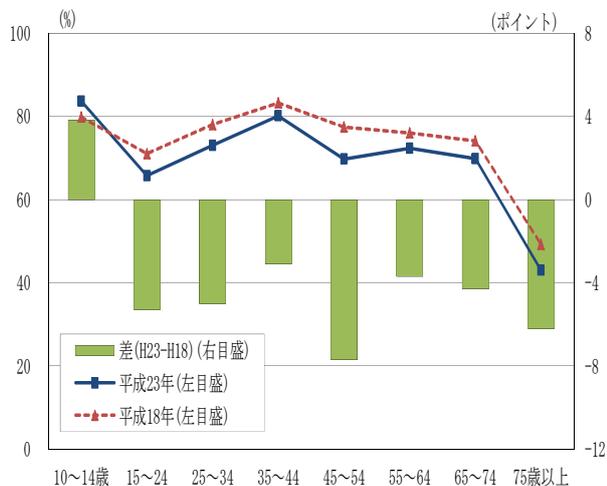
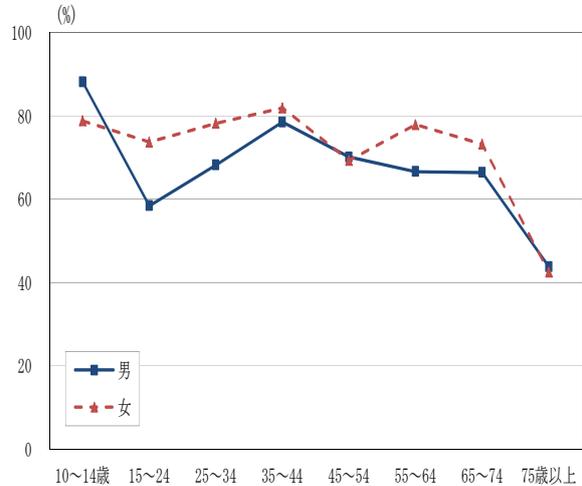


図5-2 「旅行・行楽」の男女，年齢階級別行動者率



(2) 行動者率は「観光旅行（国内）」が39.3%、「観光旅行（海外）」が5.2%

「旅行・行楽」の行動者率を種類別にみると、「行楽（日帰り）」（56.9%）が最も高く、次いで「観光旅行（国内）」（39.3%）、「帰省・訪問などの旅行（国内）」（18.7%）などとなっている。

平成18年と比べると、すべての種類において行動者率は低下した。（図5-3）

男女別に見ると、「行楽（日帰り）」は男性が53%、女性が60.8%、「観光旅行（国内）」は男性が38.7%、女性が40%、「帰省・訪問などの旅行（国内）」は男性が18.4%、女性が19%となっており、「業務出張・研修・その他（国内・海外）」を除くすべての種類で女性の方が高くなっている。（図5-4）

図5-3 「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成18年、23年）

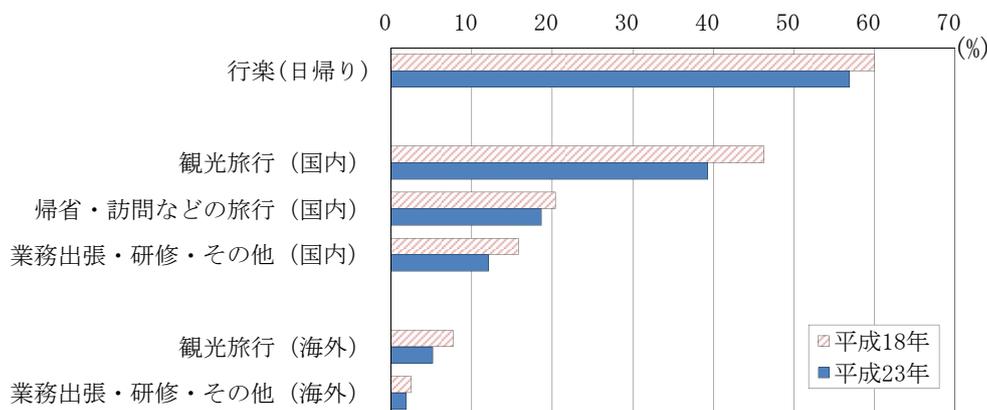
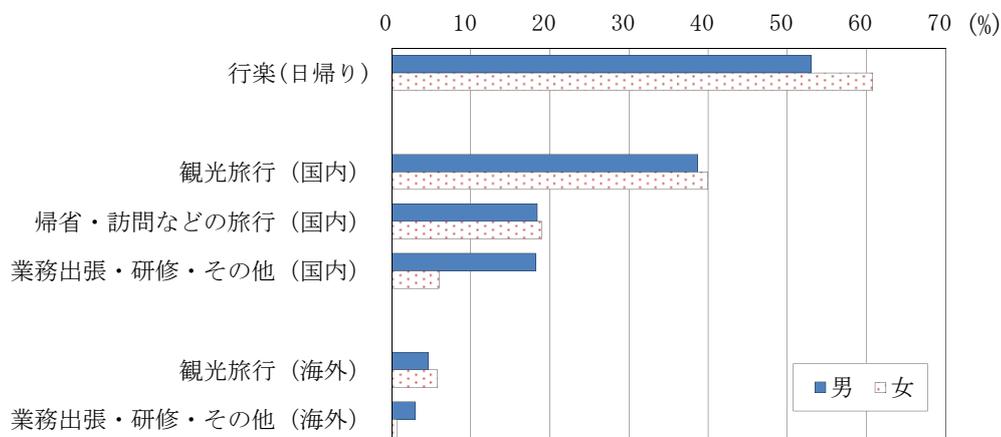


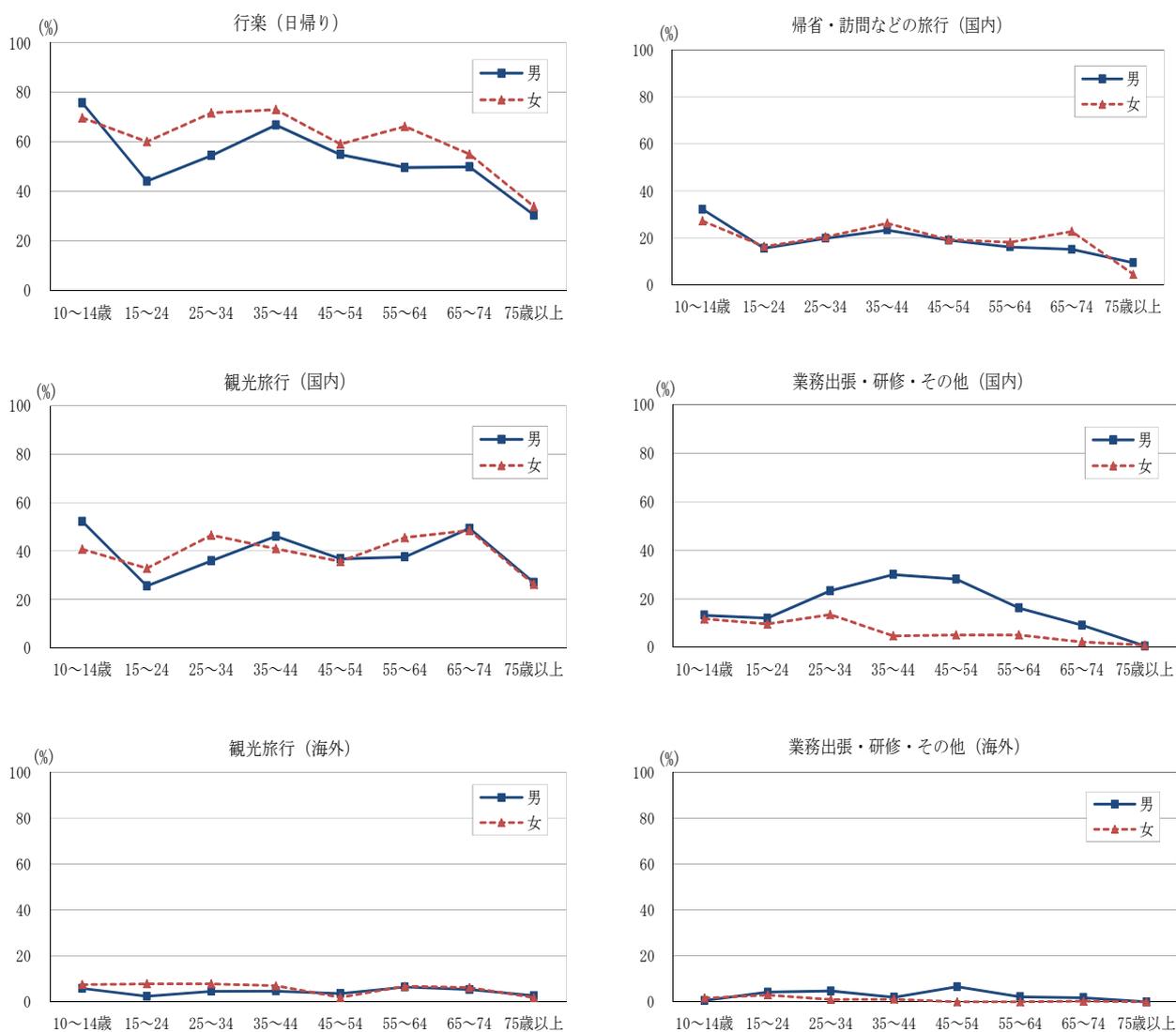
図5-4 「旅行・行楽」の男女、種類別行動者率



(3) 「観光旅行（国内）」の行動者率は、男性は10～14歳、女性は65～74歳が最も高い

「旅行・行楽」の行動者率を種類、男女、年齢階級別にみると、「帰省・訪問などの旅行（国内）」は男女ともに10～14歳が最も高くなっている。また、「行楽（日帰り）」及び「観光旅行（国内）」では男性はどちらも10～14歳で最も高くなっている。一方、女性はそれぞれ35～44歳、65～74歳と、男性と比べ高い年齢階級で最も高くなっている。（図5-5）

図5-5 男女、年齢階級、「旅行・行楽」の種類別行動者率



## 6 全国との比較

### 男性の「ボランティア活動」は全国平均を上回る

分野別生活行動の行動者率について、全国と比較してみると、本県はすべての生活行動で全国平均を下回っている状況であるが、男女別にみる男性の「ボランティア活動」のみ、全国平均を上回っている。(表 6-1、図 6-2)

また、本県の行動者率は全体的に低下傾向にあり、平成 18 年と比べて行動者率が上昇したのは「趣味・娯楽」のみとなった。特に「スポーツ」の行動者率は、全国及び本県ともに平成 3 年から低下し続けている。(表 6-1、図 6-1)

表 6-1 分野別行動者率の推移（平成 3 年～23 年）－茨城県・全国

生活行動		平成3年	8年	13年	18年	23年	増減
		1991年	1996年	2001年	2006年	2011年	18年～23年
学習・自己啓発・訓練	全 国	36.7	30.6	36.2	35.2	35.2	0.0
	茨城県	33.4 (27)	28.0 (27)	33.8 (22)	33.8 (14)	32.9 (17)	-0.9 (△3)
ボランティア活動	全 国	30.0	26.9	28.9	26.2	26.3	0.1
	茨城県	30.6 (32)	28.2 (32)	28.3 (34)	26.7 (27)	25.8 (33)	-0.9 (△6)
スポーツ	全 国	78.0	76.0	72.2	65.3	63.0	-2.3
	茨城県	76.1 (23)	73.5 (27)	70.1 (26)	65.1 (16)	62.3 (18)	-2.8 (△2)
趣味・娯楽	全 国	91.9	90.5	85.9	84.9	84.8	-0.1
	茨城県	90.6 (26)	87.9 (30)	84.1 (25)	82.1 (28)	83.0 (24)	0.9 (+4)
旅行・行楽	全 国	82.1	82.8	80.9	76.2	73.2	-3.0
	茨城県	81.6 (20)	80.3 (28)	80.3 (21)	74.4 (24)	69.6 (30)	-4.8 (△6)

注1) () 内の数字は全国順位

注2) 行動者率の増減はポイント、順位の上昇は+、下降は△で表示している。

図 6-1 分野別行動者率の推移（平成 3 年～23 年）

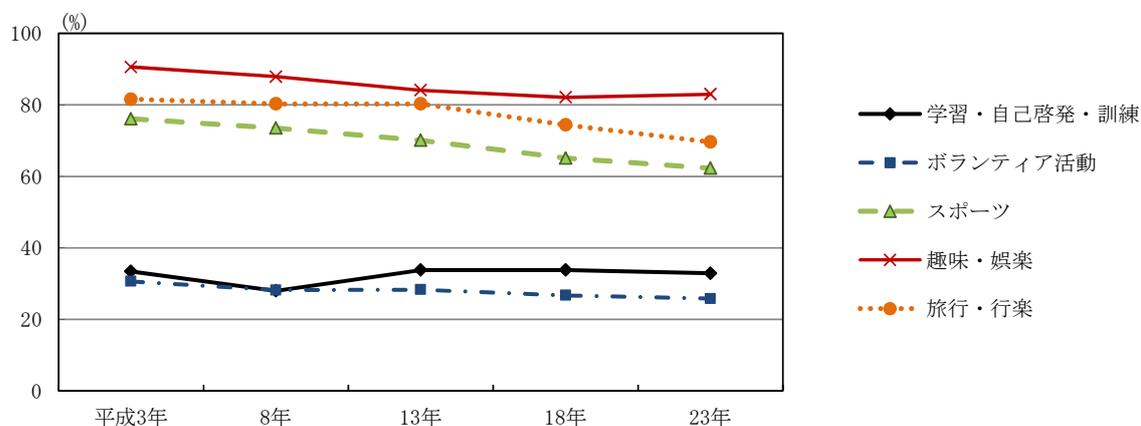


図 6-2 男女, 分野別行動者率 ー茨城県・全国

